

糖尿病ケアチームに参画して

自己血糖測定指導を経験して

泉 浩実、坂口 恭子、南本 靖彦（財）大阪府警察協会 大阪警察病院 臨床検査科）
黒川 和男、辻本 正彦（（財）大阪府警察協会 大阪警察病院 病理技術科）

《はじめに》臨床現場において多職種連携やチーム医療の重要性が認識され、さまざまな形で実践されるなか、臨床検査技師も専門性を活かしながらこれらに参画し、活躍の場に広がりを見せていることは周知のとおりである。当院においても糖尿病ケアチームが平成15年4月に発足し、現在2名の技師がこれに関わっている。活動の現状、技師の役割について報告する。

《糖尿病ケアチーム》内科糖尿病専門医師5名、眼科および外科医師各1名、成人看護（慢性）専門看護師1名を中心に、看護師（内科外来・病棟）4名、管理栄養士・薬剤師・歯科衛生士各1名ずつ、臨床検査技師2名で構成されている。代表責任者は内科部長が務め、毎月1回定例運営会議を開催し、院内の糖尿病ケアの質を保證できるようさまざまな問題解決に取り組んでいる。平成15年8月、自己血糖測定において機器メーカーによる患者への取扱い説明が禁止となり、その対応として臨床検査技師による自己血糖測定指導がただちに承認された。技師としてケアチームにおける活動が明確となり、

マニュアル作成、機器の習熟に取り組むこととなった。《自己血糖測定指導の実際》平成16年1月～6月の半年間で31件実施した。19件は初回、7件は他機種からの変更、2件は穿刺器の変更にもなう指導であった。残りの3件は機器のエラー表示への対応であった。件数が少ないため指導依頼に予約は不要であるが、開始時間は要相談としている。また指導後は、チェックリストを用いて説明内容を復唱し、理解度を確認している。1名を除き、ほとんどの患者が理解できたと返答した。《今後の課題》実際の患者指導は検査の通常業務時間内のため、他のスタッフの協力が欠かせない。検査室として取り組む姿勢が重要であると考え、多職種集合体にあっては、院内連携システム構築がチーム医療活動の成否をにぎると考える。患者指導に限らず、ケアチーム運営面での参画を積極的に行っていくことも重要と考える。検査データに関する研修会開催等も今後企画していきたい。 連絡先：06-6771-6051（内線2258）